

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 28



H30.2.28

今月のキーワード

書くことの指導

話すこと（やり取り）をつなぐ

2月になり、各小学校には順次新教材が届けられている頃かと思います。4月までの準備期間に、小学校外国語活動の教材を確認していただき、新年度を迎えられるよう、よろしくお願ひいたします。

3月上旬には臨時で英語教育担当者会議を開催いたします。来年度の移行措置および来年度以降の英語教育推進について、小中学校の先生方と共通理解を図っていきたくて考えています。学年末のお忙しい中ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。

小学校6年生の外国語活動「書くこと」

細谷小学校では、小学校6年生 What do you want to be? の授業を参観させていただきました。学級担任の平石秀邦先生とALTのQuentin先生との授業でしたが、「インタラクション（会話のやりとり）」「書くことの指導」など、小・中をつなぐ指導として参考にさせていただきたい点を御紹介します。

<本時のねらい> 将来の夢をスピーチしよう（3／3時間目）

○児童とのインタラクション（会話のやりとり）

授業の導入では、週末の過ごし方について、会話を行いました。

平石先生：“What did you do on weekend?”

児童：“Sunday/ Minamikawachi Kominkan /I do kendo.”

平石先生：“Oh, you did kendo on Sunday.”

児童：“Yes.”



5人の児童一人一人が自分の言葉で、知っている単語を使いながら担任の先生と英語でのやりとりを行っていました。英語で伝えよう、会話を続けようとする意欲を感じた場面でした。

○書くこと（単語の入れ替え）の指導

自分の夢についてのリスニング英文（右絵）を黒板に提示し、下線部の単語を入れ替えれば児童オリジナルのスピーチが作成できるよう、全ての子どもが活動できる支援がありました。また、児童が書いてみたい単語は、ALTに聞くなど役割分担も明確でした。



細谷小では、外国語活動以外の時間に、自分の夢について考えた
り、日本語で発表したりする時間をこれまでに確保していま
した。そのような下地もあり、児童はスムーズに発表内容の作成に
取りかかることができていました。改めて教育活動全体の中で授
業を考えることの大切さを感じました。

話すこと[やり取り]の場면을小・中でつなぐ



先月号では、新学習指導要領解説一覧表にある、話すこと [やり取り] について、小・中のつながりを紹介しました。一覧表では「知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動」(小学校3,4年生 話すこと [やり取り] ア) と書かれています。今月訪問したいくつかの小学校では、実際に「話す活動 [やり取り]」の場面があり、具体的な児童の姿を見ることができました。

〈緑小1年生 あいさつ〉

〈古山小2年生 Three Hint Quiz〉



Good challenge! Nice try! などの励ましの言葉を担任の先生が上手く使い、児童の自信を高めていました。

コミュニケーションの基本であるアイコンタクトを意識し、英語での Three Hint Quiz を楽しんでいました。

また、2月26日には国分寺中学校で石崎真清先生による、「話すこと」をねらいとした研究授業が行われました。「おすすめの場所(食べ物)とその理由」についてインタビューをする活動でしたが、生徒たちは比較級・最上級の言語材料を用いながら、自分の思いを伝える活動に一生懸命に取り組んでいました。

〈国分寺中学校 2年3組〉



「話すこと」の指導については、今後 [発表] と [やりとり] に分けて、指導者も意識していく必要があります。到達目標を具体的な子どもの姿として共有していきたいと思います。

小学校外国語教育に係る移行措置

平成30、31年度は移行措置期間となりますが、2年間は現行のまま中学年・高学年ともに「外国語活動」として実施及び評価をお願いいたします。来年度からの年間指導計画等については、3月1日、6日に実施される担当者会にて提案させていただきます。年度末のお忙しい中ではありますが、各学校1名の御参加をよろしくお願い致します。

文責：学校教育課 稲葉 亜希恵